

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっこい生きてます!



暮れも押し詰まった昨年12月28日、年末恒例の施設プログラムとして入寮者に人気の「潮騒ジョブトレーニングセンター餅つき大会」が、鹿嶋市宮津台の本部施設・下津駐車場で開かれました。冬晴れの好天に恵まれた当日は、腕自慢の仲間達が交代で手つきにチャレンジ。栗原センター長も昔取った杵柄で、餅つきの手本を示しました。つきたての餅は女性ハウスメンバーらの尽力によって雑煮、あんこ、納豆、からみ餅にして提供され、餅がつき上がる度に列ができるほどで、大盛り上りの餅つき大会でした(3ページに記事)。

2016

1

「刑の一部執行猶予制度」 施行への対応について



厳寒の折、皆様体調など崩していませんか。今年は依存症回復支援施設にとって無視できない「刑の一部執行猶予制度」の施行(6月)への対応があります。犯罪者に社会の中で見守る期間を長くして再犯を防止し、社会の安全につなげるのが目的ですが、主な対象は覚醒剤など違法薬物を使用した人たちの社会内での処遇と更生支援です。背景には6割を超えるこの国の薬物犯罪の再犯率と、これによる刑務所の過剰収容を改善したい国側の事情があります。本来なら国が自前で受け皿を整備すべきなのですが、諸般の事情から依存症回復支援で30年の実績あるダルクが受け皿として期待されているようです。国もやっと社会資源としてダルクを生かそうと前向きな姿勢を見せているのかな、と私は好ましく思います。今後は制度を根付かせる意味からも、ダルクや潮騒JTCに公的助成や支援の具体的な手立てが加えられることを望みます。

各地のダルクではまだ内容がきちんと把握できていないこともあって、暫くは静観の構えが多いようです。制度が運用されて裁判所が趣旨に沿った判決を下し、対象者がまとまってダルクに繋がるのはまだ数年先となるのでリアリティーが薄いようです。そうした流れの中にあって、怖い者知らずなのか私の中には新しいものへのチャレンジ精神が人一倍強くあります。今回も、あれこれ理屈を付けて否定的に捉えるよりも、国が私たちに期待するなら、その求めるものにできるだけ応えたいと前向きな考えを持っています。何しろ私は薬物とアルコールを主因とする犯罪により合計7回、通算20年も刑務所に務めた人間です。17歳で初犯となり、60歳までのヤクザ人生で逮捕歴は20回に及びます。死と隣合わせの危うい反社会的な人生に身を委ねて、実に43年間も社会に抗ってきたことになります。その私が運命の導きによってダルクで回復し、刑務官への恨みが今では感謝に変わったのです。私が生まれ変わった人生を、依存症仲間の回復支援に捧げているのは、単なる事業欲や名声欲からではありません。迷惑を掛け続けた身内や友人に対してはもちろんですが、つまるところは「社会に対する埋め合わせ」だと考えています。人一倍刑務所経験の長かった私だからこそ、国が求めることに労をいとわずに恩返しができると素直に思っています。

制度の運用に当たっては、国のガイドラインに沿って当事者の治療・回復を支援していくとしても、施設側からする課題は山積みです。でも刑務所出身の私はそんなに不安を抱いてはいません。潮騒では文通によって受刑者とのコミュニケーションを密にしており、自立準備ホームの実績と経験もあります。就労支援に重点を置く独自のノウハウも形成しつつあり、他よりも一歩進んで「出口」問題に向き合ってきたという自負があります。その上で私の考えは実にシンプルです。人間思い悩むことは大事だとしても、物事はやってみないと分かりません。制度を生かすも殺すも結局は人間次第、と私は考えています。

(センター長 栗原 豊)

年末恒例



潮騒餅つき

お雑煮やあんこ、きな粉、大根おろし、納豆餅に味付け



潮騒JTC本部（鹿嶋市宮津台）の施設駐車場で昨年12月28日、入寮者全員が参加して年末恒例の潮騒餅つき大会が開かれました。入寮者の皆さんがつきたての餅を雑煮などにして食べ、ひと足早く正月気分を味わったほか、つき上がった餅は付き合いのある各ダルクや支援団体・者に、正月の雑煮用「のし餅」として贈り、喜ばれました。すっかり師走の風物詩となった感の潮騒年末餅つき大会ですが、「仲間は家族。仲間たちと一緒に餅をつき、“潮騒餅”を食べてることで元気に年を越したい」（栗原センター長）との趣旨で、入寮者に腹いっぱい食べてもらおうと約200kg以上の餅をつき上げました。

この日は、それぞれ役割分担してもち米を蒸したり、用意した臼と杵でついたりと大忙しでした。

もち米が蒸しあがると、もち米を臼の中に入れて、杵である程度こねてから餅つきを開始。大半は餅つき機を使いましたが、入寮者の団結心を強める意味もあつて「我こそは」という力自慢が、手つきによる餅つきに挑みました。

ベテラン入寮者が指導に当たりましたが、中には杵を木の臼の端にぶつける人もいて笑いを誘っていました。つき上がった餅は餅取り粉がまぶされ、お供え用の鏡餅やのし餅に仕上げられました。次々と餅ができ上がると、お雑煮やあんこ、きな粉、大根おろし、納豆餅に味付けされ、昼食として全員に配られました。餅がつき上がるたびに列ができましたが、野外で入寮者が汗を流しての手つき餅なので、おいしさもひとしおの様子でした。

第1回「苦しみの中で留置場に届いた希望の手紙」

ユタカ vs トム 対談

「潮騒には味方が必要だった
～スポンサーシップの絆をめぐって」



ご存知のように依存症の回復を下支えするのはプログラムとミーティング、そして仲間の存在とスポンサーシップです。ダルク創設者の近藤恒夫さんが随伴者の故口イ神父によって支えられたように、栗原豊センター長(アノニマス名=ユタカ)もスポンサーである渋谷ダルク施設長の坪倉洋一氏(同=トム)の存在が欠かせません。かつて孤立無援の状況下で数少ない「味方」の一人として潮騒を下支えししてくれた存在で、文字通り栗原センター長の良き相談相手です。そこで今回から二人に登場してもらい、エピソードを交えながら潮騒 JTC の活動を振り返ってもらいます。今年1年を掛けての長期連載とします。(司会進行・広報部)

■ 7回目の受刑時にトムさんと文通する

—— そもそもお二人の交流が始まったのはいつ頃だったんですか。

ユタカ 私にとって最後の、7回目の受刑となる逮捕がきっかけでした。私は2003(平成15)年3月に前橋刑務所を出所しました。普通なら定年の60歳にして、やっとダルクに繋がるわけですが、その3年前に前橋刑務所に入りました。覚醒剤取締法違反で逮捕され、その前年の暮れか、翌1月頃だったように記憶しています。ダルクに手紙を出したんですね。

—— じゃあ、その時は既にダルクの存在を知っていた？

ユタカ 私の場合は覚醒剤とアルコールのチャンポン依存症が酷くなって、刑務所入りも5回目ぐらいから幻聴や幻覚、妄想から、まともに社会生活が送れなくなっ

て刑務所との往復人生になった。でも、まだ「底つき」できずにシャバをさ迷っていた時期に、道に迷いながらも当時、東京・浅草の寿町にあったダルクを訪ねたことがあります。姪からだったか、パンフレットをもらったのだけれど、2段ベットの狭い部屋で、その時は「こんな所、とても俺が行く場所じゃねえや!」と拒否反応が出てしまったんです。だから、その時にはダルクに繋がることはなかった。ハイヤーパワーが「まだ早い」と判断したんでしょうね。「オマエはもっと苦しんだ方がいい」と。

トム 日本ダルクは最初、浅草にあったんです。僕は2度目の服役の後も20年以上使用していた覚醒剤がやめられず、都内の精神科病院を経てやっと沖縄ダルクに繋がったんです。でも、半年間ぐらいは回復のレールに乗れずに苦しみました。沖縄のフォーラムで、優れた回復をしている先行く仲間に出会った辺りから、50歳近くになって何とかクリーンを保てるようになった。その後は近藤さんの下で、日本ダルクでスタッフ研修をすることになったんです。

ユタカ 当時は刑務所では面会も通信も親族に限られていたから、トムさんに初めて手紙を書いたのは前橋刑務所に入る前、警察の留置所の中だったと思う。判決を受ける前で「なんとか刑を軽くしたい」といろいろと作戦を練って手紙を書いたことを思い出しました。その時も、私が薬物をやめるきっかけとなる姪から手紙でダルクの存在を教えられていたんで、さっそく現状の苦しみを訴える手紙を出したんです。実は姪も依存症者で、地域の自助グループに繋がって一足先に回復していたんです。今考えると叔父の私を何とかダルクに繋げて助けたいと、

必死だったんでしょうね。

トム 僕は日本ダルクのスタッフ研修生として、とにかく手紙の返事ばかりを書いていた。他のスタッフは面倒だから、やりたがらなかったんですね。そんな中で、ユタカさんから手紙をもらったのが始まりでしたね。

ユタカ ただね、トムさんからの返事は私の期待や思惑とはずいぶんと違っていました。でも、手紙を出すと、とにかく返事が早いんです。すぐに返ってくる。その対応の素早さに「へえー、ダルクにはこういう人がいるんだ」と興味を抱いたわけです。

■ 日本ダルクの藤岡施設には断られた

トム その傾向はいまだにあるんです。刑務所に務めたことのある人なら分かるけど、受刑者は手紙を出した後は、返事を首を長くして待っている。僕もその経験があるから、よく分かるんです。文面は何でもいい。「こんにちは。晴天が続きますね。毎日こんなことをやっていますよ」みたいな、たわいない身辺雑記のような内容でいいから、とにかく返事はすぐ書くようにしていた。僕の刑務所経験がそんな形で役に立ったんですね。

ユタカ 差出人に「スタッフ、坪倉洋一」って書いてあるトムさんの手紙にはいつも驚いていた。また今回も、素早く返事が来たって感じでね。下獄するまで恐らく3、4回は文通したと思う。もっとも、その後は私の刑が確定して服役となり、トムさんとの文通は途切れてしまったけれども…。

——その後、出所してから実際に会ったのは？

ユタカ 事前に姪が群馬県藤岡市にある日本ダルク アウェイクニングハウスに行くように手配してくれていたんです。でも、当日べろんべろんに酔っぱらって行ったもんだから、まず精神科病院で診断書を貰ってきてくれ、と。で、診断書を貰って藤岡まで行ったんだけど、車で連れて行ってくれた姪の知り合いが私に近づくの怖がってね。それで結局、入寮を断られた。

トム 珍しいですよ、その当時、施設側が受けないということが。僕は話を聞いて、信じられなかった。そんなことはないだろう、と。だって近藤さんが直接に関わった施設だから。「来る者は拒まず」の精神でね。

ユタカ あの時は、そうとう私がワルに見えたんだろうね。まあ出所3日目で警察の留置所の中に厄介になり、しかも元ヤクザというレッテルも張られている。その後も大宮署に銃刀法違反で捕まったりもした。でも、その時は検事に「ダルク行きなさい」と諭され、姪が身元引受人となって起訴猶予でシャバに出られた。検事からは追っ

かけで3回ぐらい所在確認の電話があったけど、「ちゃんとやっていますから」と返事すると安心してくれた。そうして千葉ダルクを経て鹿島ダルクに運よく繋がったという流れです。

■ 鹿島ダルクでメキメキ頭角を現していた
——センター長が鹿島ダルクに入寮してからはトムさんと実際に会う機会はなかったんですか。

ユタカ ダルク関係で、あちこちで会合があるたびに「こういう人を知っていますか」と参加者や関係者にトムさんの事を尋ねたりしました。だけど、なかなか会う機会がなくてね。

トム いつ頃だったですかね、確か鹿島ダルクのフォーラムで会ったのが最初でしたね。その頃はユタカさん、順調に回復の歩みをしていた。もともとリーダーシップのある人だから、鹿島ダルクでもメキメキ頭角を現していた感じでしたね。

ユタカ あの時にトムさんの事を教えられてね、「あの背の大きい人がそうですよ」と。

トム その頃はユタカさんもいい若い衆？でね。フォーラムでも司会をするような立場だった。勢いがあってね、バリバリやっている感じ。そこで初めて会ったわけです。

——運命的な出会いだった？

トム 姪御さんから叔父さんだとは聞いていたし、鹿島ダルクにいるという話も聞いていました。とにかく元気だった。これじゃあ藤岡の施設が断るのも無理ないわ、とね。

ユタカ あの頃はまだ自我の固まりでした。今振り返っても気恥ずかしい思い出です。とにかくそこで、手紙の主であるトムさんとやっと出会えたわけです。そしてトムさんは私のスポンサーとなってくれて、私がつまづきそうになると適切なアドバイスをくれて軌道修正してくれました。私の随伴者となってくれて潮騒JTCの発展を縁の下で支えてくれる、私にとっては欠かせないとても重要な存在になりました。(次号に続く)

【坪倉洋一】昭和23年神奈川県横浜市生まれ。若くして薬物依存症となり、長く苦しむも1997年東京ダルクに通所を開始し、その後は沖縄ダルク入寮を経て、日本ダルクでスタッフ研修し職員に。元横浜ダルク施設長。刑務所での薬物再犯防止プログラム等に参加、法務省保護局薬物地域支援研究委員。現在、渋谷ダルク常任理事。

※スポンサー＝12ステップ・プログラムでは、スポンサーと呼ばれる人をもつことを勧めている。依存症の世界で自分の回復に関してどんなことでも相談できる相手(先輩回復者)のこと。

入寮者ケーススタディー

その1

81歳のヤク中 サカの場合 ①

依存症という難病と 回復への希望



依存症の多様化などで、潮騒 JTC にも個性あふれる
アディクトたちが登場するようになりました。しかし、
その病根は深くなるばかりです。まるで「人体実験」と
も言える危険ドラッグや、合法薬物な上になかなか切れ
ない処方薬依存など、このところ潮騒では回復の難し
さに直面しています。これに拍車を掛ける超高齢依存
症者や複合的な依存症、精神や知的障害との重複障害
…、以前なら「ダルクの手に負えない」範疇の人達も珍
しくはありません。もはや従来の考え方や既存のプログ
ラムでは回復のレールに乗れない人たちに、施設側は
どんな対応をしていけばいいのか？ 悩みは深くなるば
かりです。そこで今回から特に困難な状況にある入寮
者をケーススタディー(事例研究)として、新たな依存症
の回復について考えます。第1回は81歳のヤク中、サ
カの場合です。上下2回に分けて報告します。



81歳でも「最後は素面で死にたい」

依存症回復支援施設の潮騒 JTC にも、ついに80歳
を超える入寮者が登場した。それが超ヘビー級のヤク中
のサカ(81)だった。「だった」と書いたのは、昨年12月
中旬に刑務所から繋がったものの、1月半ばには施設を
去り、その日に関西方面で警察に逮捕されてしまったか

らである。やっと施設に繋がったのに腰が定まらず、刑
務所へと逆戻りするケースは珍しくはない。気になるの
はその年齢である。「もはや80歳なら回復など考えず、ク
スリを使い続けて命を全うした方がヤク中の生き様とし
て本望ではないのか」と突っ込みたくなるが、「最後は素
面で死にたい」「家族と和解し、故郷で死にたい」とサカ
も話した。でも、現実はそのようではなかった。

在日コリアン2世の苦労人生を歩む

「依存症の回復に年齢は関係ない。回復したいと願う
人なら、どんなに高齢でも受け入れる」。そう主張する栗
原センター長との文通を通して、サカは潮騒に繋がった。
見事に期待を裏切ったサカだが、彼は在日コリアン2世
で、昭和9年に中部地方の田舎町で生まれた。虐げられ
た生活だったが、父親は炭焼きの仕事で生計を立て、そ
の腕が見込まれて愛知県I市に移り、市全域を潤すほど
配給するなど繁盛し、一時は羽振りも良かった。しかし、
サカが小学校1年の時に太平洋戦争が始まり、6年時に
終戦。戦後、サカは新制中学の一期生となり、間もなく一
家は故郷の田舎町に戻り、高校を卒業して地元の国立大
学に進学。しかし、親の経済的な困窮により中退。その
後は大阪に出て韓国学校で母国語などを勉強した。も
ともと頭が良く、サカは今でも韓国語は堪能だという。

ただ、学校が続かなかったのは経済的な問題だけで

はなかった。既に新制中学1年の頃、サカは15、6歳でシャブと出会い、依存するようになっていたことも影響していた。というのも戦後間もなくは、戦争中に軍隊や軍事工場などで盛んに使われた疲労回復・強壮剤としてのヒロポン(覚醒剤)が、巷に広く出回っていたからだ。学校で先生からも「おいサカ、勉強するならヒロポンがいいぞ。シャキとして勉強がはかどる。悪いが歸りに薬局で買って、明日俺の所に持ってきてくれ」。そんな会話が平気で交わされていたほどだ。

かしまし娘の長女とも一緒に ヒロポンをやった

その先生の影響を受け、サカもヒロポンを常用するようになったが、それほどはのめり込まなかった。一時はやめたものの、大阪に出てヤクザの真似事のような生活をするようになると、今度は本格的にのめりこんだ。韓国人として差別され、仕事もない。そんな劣悪な生活環境の中でシャブはサカにとって人生を潤す“必需品”となっていた。以来、今日までずっと打ちっぱなしのシャブ人生だ。

「戦後間もなくのヒロポンは、そんなに利きはよくなかった。でも、芸能人などには盛んに使っていた。さすがにミヤコ蝶々と一緒にやったことはなかったが、大阪時代には多くの漫才師とよく打ったもんだ。知られているように、かしまし娘の長女(正司歌江、10年にもおよぶヒロポン中毒だったが姉妹の協力で回復した)とはよくやったなあ。その後も名前は言えないが、ある有名芸能人ともよく一緒にやった」という。誰かと聞いても、さすがに名前は明かせないという。まだ現役の芸能人なので、墓場まで持っていくつもりらしい。

サカは戦後暫く、朝鮮戦争の特需景気で潤った鋼材関係の仕事に従事した。工場現場で鍛えられたせいで技術を磨き、かなり懐具合が良くなってクスリを使う環境には恵まれたようだ。しかし機を見るに敏な性格の彼は間もなく、この業界から離れ、その後は長くタクシーの運転手として生計を立てるようになる。トラックの運転手らとともに、この職種はシャブと縁が深く、同僚らも裏では盛んに使っていたという。これによりサカのシャブ漬け人生は決定的となった。「世間は顔をしかめるとしても、私に言わせたらシャブは日本の経済成長を縁の下で下支えした。いわばアンダーグラウンドの活力源だよ」。戦争中の非常時にヒロポンが“活躍”したように、平和となっていた頃の時代も社会を覚醒させる“必要悪”としてシャブは存在する、とサカはうそぶいた。(次号に続く)

どっこい 私も生きてます

第六回

チハルの回復記

早熟だった幼少期の複雑な思い出 ～大好きな両親から離反するきっかけ～

私には4つ歳下の妹がいるが、離れて暮らしていた時間が長かったから家で一緒に過ごした記憶がない。私が小学2年生の頃からは母親が伯母と共に夜の商売を始めたので孤独感が増した。父親も居たが生活は擦れ違いで、夜になると一人きりになる時間がより一層長くなった。いつの間にか母の仕事の関係から私は“存在しない子”となり、親の愛情もお金に変わっていった。小学生にもかかわらず毎日のように生活費(小遣い)2〜3千円が、私の手に乗るようになった。金の使い方など知らないから、朝は近所のパン屋でパンを買い、夜は幼馴染み(女の子)の親が経営するレストランに通い、“独りディナー”をしながら近所の大人たちと戯れていた。そんな生活をする中で、私は少しずつ周囲の「大人の事情」を把握するようになった。子供ながらも生活の知恵みたいなものを身に付け、変に大人びて処世術に長けるようになった。どうやら本当の所で家族がどんなものなのか分らないまま、私は大人になってしまったようだ。

前回記したように父親は若かったが、一生懸命働く人だった。夜はよく居酒屋やスナックに、私を連れて行くことがあった。私からすれば両親に対する不満はなく、むしろ自慢できる親たちで、特に母親は大好きだった。そういう意味ではマザコンかも知れないが、そんな子供らしい当たり前の気持ちも、予期しない「事件」でひっくり返ってしまった。

ある日私は従姉妹に呼ばれ、お医者さんごっこに誘われた。患者が従姉妹で、医師が私。会話の内容は忘れたが、女の子の大切な秘部を見せられた。私は子供心にお小水の出る不浄な所だとの思いが強くなり、割り箸を持ち出して触れようとした。しかし、運悪くこれが従姉妹の父である伯父に見つかり、死ぬんじゃないかと思うくらい殴られた。認めたくないが、ここから私の虐待問題が始まった。私は助けを求め、母親にその話を話したが、信じて貰えなかった。そこから親や大人に対する不信感が一気に増幅していった。私は家を出ることばかり考え始めるようになっていた。(次号に続く)

こんなイベントに
参加しました、
というご報告。

今月のイベント参加報告

年末年始も行事参加や恒例イベントに取り組む

～クリスマス会で盛り上がり、元旦には和太鼓の初打ちも

やや旧聞に属する話題となりましたが、潮騒 JTC では年末から年始に掛けては各種イベントの参加や施設恒例の行事などが相次ぎました。本来なら11月の潮騒JTC10周年フォーラムの後だけに、スタッフには休養が求められるところですが、やはり師走は時節柄どうしても気ぜわしくなります。

ギャンブル講座やJA感謝祭に参加

まず12月6日には水戸市で開かれた「ギャンブル依存症基礎講座～治療法と解決策」にギャンブル問題を抱える仲間など10数人が参加しました。主催は一般社団法人・ギャンブル依存症問題を考える会(本部・東京、田中紀子代表)で、銀行員などの巨額横領事件が頻発している茨城県で緊急開催したものです。

次いで12、13日には潮騒農場で生産した野菜を納めているJAしおさい鹿嶋農産物直売所(鹿嶋市神向寺、杉山美幸店長)の7周年感謝祭があり、潮騒の仲間たちは農業隊を中心に駐車場への車の誘導などで同イベントを下支えしたほか、今回から本格的に取り組んでいる焼き芋を販売しました。感謝祭では雑煮の無料提供や野菜の詰め放題などが人気で、多くの買い物客で賑わいました。また20日には、潮騒が活動拠点として利用している市まちづくり市民センターの大掃除にボランティアとして参加しました。主体はデイケアの仲間たちで、普段は地域の人たちとの交流がないだけに貴重な体験になりました。

仲間が一堂に会したクリスマス会

23日には毎年恒例の「潮騒クリスマス会」が行われました。この日は年に2回行う鹿島ボウルでのボウリング大会で盛り上がり、午後3時からアディクションビレッジ会館でのクリスマス会に移りました。今回は施設を構成する各部署(デイケア、農業隊、作業隊、おらげのかまど、百寿亭、女性ハウス)の仲間たちが一堂に会し、それぞれ工夫を凝らした出し物を用意して会場を沸かせました。催し物が終わるとオープンスピーカーズミーティングに移り、仲間の回復体験や過去の経験などに耳を傾けました。みんなが楽しみにしているビンゴゲームでは、仲間たちが思いがけないクリスマスプレゼントを手にして大いに盛り上がりました。

暮れも押し詰まった28日には潮騒が取り組む行事の締め括りとなる年末恒例「潮騒餅つき大会」があり、仲間たちは28、29日の各部署の大掃除を経て年末&正月休みに入りました。大晦日は入寮者がNHK紅白歌合戦のテレビを見たりして、それぞれのスタイルで過ごし、2016年に越年しました。

元旦から和太鼓初打ち、4日には鹿島神宮に初詣

年が改まった元旦には早くも潮騒太鼓連中が、神栖市の息栖神社で鹿島灘太鼓の和太鼓初打ちに参加しました。2日には仲間たちが年明け初の顔合わせとなり、全員が順番に新年の抱負を述べ合い、お雑煮を食べて各ナイト施設に戻りました。そして4日は地の利を生かした鹿島神宮への初詣でがあり、入寮者が依存症の回復に向けた今年1年のクリーンなどを祈願しました。こうして潮騒では5日には正月モードから通常活動に戻り、入寮者らは地道な回復プログラムへの取り組みに向け、決意を新たにしました。
(※各イベントについては潮騒のホームページにあるブログ記事を参照してください)



元旦から神栖市の息栖神社での和太鼓初打ちに参加した潮騒太鼓連中の皆さん

女性メンバー 正月風景と 新年の抱負



しま

2016年、明けましておめでとうございます。今年は元旦から何となくお目出度い感じです。みんなでカラオケに行って楽しんだり、2日は鹿島神宮に初詣にも行きました。独り暮らしではとてもできなかったことが出来ました。今年も栗原センター長に感謝です。

れいこ

昨年、父が百寿亭(高齢者介護デイケア施設)にお世話になることが決まり、思いもかけず父と年末年始を迎えることができました。これもセンター長とハイパーパワーのお陰です。私自身、安心し、嬉しく思います。父も少し安心していることでしょう。新年を迎え、自分自身をしっかり見つめ、方向性を見定めていきたいと思います。

すみれ

昨年は百寿亭も始まり、慌ただしい毎日でした。ハンドベル、ダンス、男性陣とのクリスマス会、百寿のクリスマス会、「ルミの家」クリスマス会と続き、年が改まった元旦には女性陣全員とセンター長夫妻のカラオケ、鹿島神宮への初詣…、あっという間に松の内が過ぎて1月8日は私のクリーン1年バースデーでした。365日、一滴もアルコールを飲まずに過ごせました。この国では正月をアルコール(お屠蘇)で祝うのが習わしですが、ここにはその風習はありません。今年も、いろんな場所に行き、沢山の方の話に耳を傾け、潮騒エイサーにも参加したいです。

みのる

施設での生活リズムが身についているからでしょうか、紅白歌合戦を最後まで見たのに元旦は朝6時に目覚めました。昔

の私なら正月は日本酒漬けで、それが日本の伝統文化だとうそぶいていましたが、ここにはアルコールはありません。その代わり仲間やセンター長、ルミさんと元旦からカラオケ三昧、正月は家族や親類が集まり、おせちや雑煮を食べるのが一般的なのでしょうが、だとしたら私たちも「仲間は家族」なので社会の人と同じ幸せを味わっています。

3が日は仲間とおせちや雑煮を食べ、たわいない話をして、TVで箱根駅伝などを見て、ゆっくり過ごし「今年は良い年にしよう」と思いました。鹿島神宮でお祈りし、「みんながスリッパしないで1年間元気に過ごせますように」とお賽銭5円を捧げました。私もそうですが、仲間達とアルコールやクスリのない生活の、新しい生き方ができるといいな、と思います。今年も変わるチャンスを大切にしたいです。

いるか

今年の正月は、とてもものんびりできました。年末年始は仲間と紅白を見たり、カラオケに行ったり、初詣に行ったり、センター長やルミさん、仲間の配慮によって楽しく過ごしました。仲間と一緒に夜ゆっくりTVを見たりするなんて、めったにないことで、ああでもない、こうでもない好き勝手におしゃべりを楽しみました。ふだんはめいめいの部屋で暮らしているけれど、正月はみんなで食堂に集まり、おせちやお雑煮を食べたりして、とても楽しかったです。みんなに感謝です。

みゆき

今年は、昨年学んだことを活かして前に進んでいきたいです。職員、スタッフの皆様と健康を第一に協力し合いながら楽しく頑張ります。

受刑者からの手紙

2年後の出所を私のターニングポイントにしたい

2015年最後の便りとなります。たくさんの励ましを頂き、誠にありがとうございました。センター長をはじめシュンさんや潮騒の仲間との出会いがあって、私は生きることの大切さを深く考えようとしています。毎月送って頂いている「どっこい生きてます」やマーシーの本、「俺たち仕事したいんだ」「進藤龍也対談(倒れても人はやり直せる)」そして冊子「ターニングポイント」…。何度読み返しても、「感謝」の2文字が浮かび、「私も病気、あなたも病気」ということが、理解できるようになってきました。正直なところ、不安や疑念を抱くことがないわけではありませんが、希望の光が大きくなっていることだけは確かだと思います。何事もあきらめてしまえば、考えることも無く自分の時間が止まるだけ。しかし欲が人を生へと誘う。薬物が生きる理由であるならば人としての優しさは棚上げとなり、本能のままに恐怖の中で悶死する。シュンさんの指摘されたことは、納得です。

今回「ターニングポイント」を読んで、「止まっていた心の中の時計が時を刻み始めた」「仲間から希望、夢をもらい、人間らしい生活ができるようになった」「今日が私のバースデー」「シラフの生き方を楽しみませんか」「とりあえず今を大切に生きる」その他たくさんの仲間のメッセージを胸に刻んで、「今日一日」生きて行こうと思います。センター長の「いまさら薬をやめられるか」という気持ちが、回復して行こうとする気持ちを阻害し、混乱をきたします。先人たちは何度も戦い、敗れ、許され、守られ、回復の道を一步一步進んで行ったのだと思い、その道程の清らかさに羨む気持ちが沸き起こりました。私も同じ道を歩いて行くことができるのだろうか。不安な気持ちで一杯です。私はまだダルクの本質が分かっていません。今は心の声さえ届いていないと思っています。ダルクの存在を知ったとしても、今はどこか他人事のような…。理屈、理想、現実…。言葉では色々と飾ることができるとしても、人との関わりの中で主義主張、価値観の違いなどで優先順位は変わってくる。薬物一番だった私には、何が大切で必要なのでしょうか。「絶望に終わりはあったが、回復は無限だ」トムさんからのメッセージ。生きる希望と仲間との生活の中から薬物と格闘する日々は生まれません。実体験の無い私には絵空事。しかしながら、治療を施す場所は、ダルク以外にない。薬物を周囲からの強制や強要では、「コントロール」の論理では、回復できないことは実証済み。その「無力」な私が仲間のメッセージや「ハイパワー」で「今日一日」を大切にすることを育てることができるだろうか。

私は自分に対して大変に甘い人間で、約束が守れない人間です。現在は半信半疑の状態です。こんな私が仲間として一緒に生活していけるのか、心配でなりません。私にダルクの中で居場所が見つけられるといいのですが。「渴しても盗泉の水を飲まず」これは、どんなに困っても不正はしないという意味だそうです。薬物の使用は自己責任。ダルクは許しがあって前へ進む。自分自身でも許すことができなかったのに、許してくれるダルク。未知の領域は、今までと真逆でありながら、存在意義が高い。

2年後に出所しますが、その日が私のターニングポイントであればいいと願うばかりです。(茨城県 H・N)

「なんとしても生きて出たい」と強く思う毎日

事後報告になりますが、工場に帰ってから身元引受人の申請をしました。センター長を引受人として登録しましたこと、ご報告しておきます。病舎に戻ってきてから夜間独居に入ることができましたので、これからは出来る限り手紙を出したいと考えています。独居に来てまだ1週間しかたっていませんが、独居ではTVが週に3日しかありませんので、勉強もできるし、本などを読む機会も多くなります。お陰で潮騒通信もじっくり読むことができます。潮騒通信を読んでいますと、自分も1日も早く帰って、他の人達と一緒に頑張れたらと考え、その日が来ることを楽しみに、なんとしても生きて出たい、と強く思う毎日です。身分帳に追加登録しましたが、許可になるには多少日数がかかりそうですが、それまでは記載外発信の許可をもらっての発信となりますが、外部のことなどを知るには、誰か外の人達と連絡を取る必要がありますので、お忙しいでしょうが、時間がありましたら、お手紙を下さい。楽しみに待っていますので。

(北海道 F・T)

最近は刑務所へのダルクメッセージが多くなり、受刑者の間に少しずつ依存症やダルクについて理解が深まっています。後発の潮騒 JTC はまだ機会に恵まれません、「潮騒通信」を通じて何人かの方々はコミュニケーションが取れています。事前に知識を得てもらうことで、施設に繋がった後のプログラムの取り組みが比較的スムーズにいくようにとの願いからですが、その幸運を手にできるのはごく一部の受刑者にすぎません。力不足を意識しています。(潮)

自分が変われば周りも変わり景色も変わって見える

早速の返信有難うございます。何だかんだと言って、かなりご無沙汰をしていたので戸惑っておりました。さて当地も雪が積もり冬本番です。年を取るのは本当に早いもので、私もアツという間に 40 代後半になりました。当初は刑期 5 年という期間がとても長く、自暴自棄になっていたのか、薬を大量に飲み周りの人達に大変迷惑をかけていました。ところが潮騒のパンフレットに目を通し何度も読んでいるうちに、「いくら格好つけてもただのポン中じゃないか」と思うようになり、自分がとても恥ずかしくなってきました。そして薬を制限したのです。眠れない日が続きました。口は渴くし覚醒剤の切れ目のようなものです。何日続いたのか分かりませんが、私に背中を向けていた人たちが変わって来たのです。

今だから皆が話してくれます。「あの頃の F さんに近寄れなかった」と。そんな私が今では工場が一番古く、班長を務めています。私は確信しました。自分が変われば周りも変わるし、自分が変われば周りの景色も変わって見える。だからポン中を止めたいのです。全てを覚せい剤のせいにしていたい訳ではありません。自分自身にも問題はあろうし、責任もあります。今回で 7 回目の受刑生活ですが、これを最後にしたいと思っています。

私の人生は半分が刑務所暮らしで、今までの仲間は私と同じポン中がほとんどですし、このまま地元に帰っても同じことだと思います。それなら、こんな私を誘って下さる施設長の所で 13 カ月の更生プログラムを受け、回復したいのです。薬物離脱教育を受けたのでダルクという所がどのような所が大体分かりました。こんな私を仲間だと言って下さる人達に迷惑をかけることなく、施設のルールも守り努めたいと思います。最低 13 カ月、40 代後半にして私がどれだけ変わるか自分に期待しています。今の私には家族も身寄りありません。この様な私ですが、改めてよろしくお願いします。(青森県 F・T)

「潮騒でお世話になって薬物を断つ」気持ちが定まった

私事ですが、逮捕される以前から、仕事のこと、人間関係、生きて行く道の上で、色々と思い悩み考えてきましたが、なかなか思い定まらず、また結果を出せずに薬に逃げてきました。ですが、「薬を止めたい」と言う望みがあることだけはずっと変わりなく心にあるので、どうか 13 カ月の回復プログラムを受けさせて下さい。満期日までは 2 年半以上ですが、具体的にこれからどのように申請、手続きを踏めばよいのか? 帰住地、身元引受人として申請して良いのか? 今ここで出来ることは? やるべきこと、必要なことがあれば一緒にご教示願います。今年の最後の最後になって「潮騒でお世話になって薬物を断つ」という気持ちと目標が定まりましたので、ここでの色彩の無い日々の生活の中においても違った景色が見えてくるのでは…、自分自身に対しても期待が持てたような気がします。ありがとうございます。落ち着いて生活するようにします。(茨城県 T・M)

実刑の確立が非常に高くこれを機会に薬物を断絶したい

私は拘置所にて公判を待つ身の WK と申します。今回筆を執らせていただきましたのは、恥ずかしながらこの度の私の罪名が薬物ということにあるからです。逮捕歴が数回あることから実刑となる確立が非常に高く、私自身これを機会に薬物を断絶したいと考えており、私の身内に頼み「潮騒ジョブトレーニングセンター」のパンフレットを取り寄せて頂いた次第です。パンフレット並びに「潮騒通信」を拝見させていただき、プログラムなどにも大変に興味を持ちましたこと、また薬物を断ち切る為に環境を変える事も今の私にとって必要と思い、願わくば身元引き受けも視野に入れていただき、入所についてもご一考いただきたく、心から祈念しております。突然のお手紙を差し上げながら、不躰なお願いを申し、本当に申し訳ありません。

(東京都 W・K)

しおさい俳壇

1月のお題 **初 日**

選者 **桐本石見**

わが俳句人生の歩み・No.25

センター長 **栗原 豊**

刑務所で食べるおせち料理と餅への深い郷愁

私は受刑者となってから俳句について学び、自らも作るようになったことで、自然観が随分と豊かになった。俳句には必ず季語を入れるのが決まり事なので季節の移ろいに敏感になり、知識も身についた。社会の中にいた時よりも囚われの身となったことが情報への渴望感を強くし、物事の関心を増幅させ、より五感を研ぎ澄ませた。

出所の年だった2003年の正月4日、姪に宛てて上村占魚という俳人の「天上に宴ありやと幸やます」と、教科書でよく習う小林一茶の「御降の祝儀に雪もちりかな」を冒頭に紹介して、姪に便りを出した。この「御降(おくだり)」とは元旦または三が日に降る雪や雨のこと。豊作の印として、お目出度いとされる。これなど俳句に親しんだからこそ得た知識で、手紙にも「今年は豊作の年なのでしょう。この三が日に二度も雪が降ったのですから、窓からの眺めも真っ白です」と聞きかじった知識を披露したりした。

この時の手紙には受刑中の正月生活についても触れ、「年賀状届きました。ありがとう。大型連休の九連休(刑務所での年末から正月に掛けての長期休みのこと)にもとうに飽き飽きしています。お正月のおせち、お餅、お菓子も昨日で食べ終わりました。三が日に集中して出された為、満腹感を味わいましたが、今朝から普段の食事に戻り、急に寂しい思いもしています。でも、出所まで三か月を切っているので何でも我慢が出来ますよ…ネ」などと記した。

今月号でも特集しているが、潮騒JTCでは年末に入寮者全員が参加して餅つきをするのが習わしとなっている。私がひとときわ餅に対して思入れを強くするのは長い受刑生活が下地になっている。拘置所でも刑務所でも祝日には特食(お菓子などの甘いもの)も出るし、正月にはおせち料理も食える。正月を待ち望んでいるのは子どもたちだけではない。塙の中の人も同じように待ち遠しいのだ。私は子供の頃から農作業を手伝ったので、自然に根差した行事や祭りに触れてきた。これら祝い事には餅がつきもので、例え刑務所の中であっても正月に食べる餅は格別なものだった。(この項つづく)

富士山の
ダイヤの光り
初日の出

コバ

ダイヤモンド富士は朝と夕方で見れますが関東からは夕方が多い、近くでは潮来市牛堀の権現山公園から天候に恵まれると見れる。またこの詠の初日は山梨県身延町などから見れる。富士山頂と太陽が重なる僅かな時の光りはダイヤの光りに似て美しい。

特選句

五郎丸
ポーズで祈る
初詣

シゲ

五郎丸はラグビーの選手で、ことにキック時の祈りのポーズが独特で人気がある。神社は二礼二拍一礼が一般的だが五郎丸ポーズで祈ったのだ、現代的で面白くユニークな明るい句です。

特選句

初日射す
波の此方の
鹿島灘

ゆたか

鹿島灘は神栖市から大洗町までの約八十キロに及ぶ海岸で鹿島港が出来るまでは青松白砂の浜が続いた。また親潮、黒潮の境目でもあり靄の立つのが多いが沖は秋刀魚、平目などの漁業の海でもある。初日は岬や山などから迎えるのも良いが足元まで波立つ灘からの眺めも広々として厳かに実感の句です。

特選句

秀逸句

今月の秀逸句

寒に入る

無力と言え

悟りかな

ゆたか

悟りは仏語で真理を知る、覚悟などの意味があり、僧が山に籠り悟りを開くなどに言うが俗人も日々の生活の中でその思いになる。ことに自然現象の暑さ寒さや台風、地震などにも人間として逆らえ切れない事を知る。寒の寒さも同じで逆らうよりそれに従って生きるのも人の智慧、悟りかも知れません。しみじみした句です。

酒断って

希望を持ちぬ

初日かな

もと

人類は酒や薬や博打など楽しみを作るがそれに溺れる事も多い、酒は人類始からあるがどれだけ苦楽を生んだことであろう。その酒を断って初日に今年の希望を誓う切実でまた明るい思いの句でもあります。

初日浴び

叫ぶ娘の名は

波に消ゆ

ブー

初日を見るのは浜や岬などありますが犬吠埼などはことに有名、そこに立って好きな娘の名を叫ぶのはロマンもあります。しかし波音に消されるのは淋しい、私もそんな青春時代が懐かしい句でもあります。

運幸を

初日に願ふ

今年かな

あべ

人類の生活には神仏への祈りや願いが古来からあり、それだけ生きることの苦勞を要することでもあります。努力研鑽して人智の及ばぬ極みは神仏に頼むわけで運も幸も初日に願う少しの哀れを籠めた句でもあります。神仏とは偉人や山、川、海、木、太陽などでもあります。

猿達も

初日見ながら

露天風呂

ひろ

テレビなどでも猿達が温泉に浸かる報道をみますが、実に微笑ましい、ここは長野県地獄谷野猿公苑で世界でも珍しいとのこと、今から約五十年前からとか。山からの初日に猿も新年を祝うことであろう。

楽しみの

申年生れ

初日待つ

ケン

十二支は中国で紀元前二百年頃制定され日本には六世紀半ば頃伝わる、年、月、時刻、方向などを表す。江戸時代には民間にも浸透し、例えば申の刻は十五時から十七時、方向は西南微北など。自分の干支年で何か良い事でもと初日を待つ。希望の句でもあります。

佳作

輝きて鹿島の空の初日かな

わか

綺麗だね初日を見てて希望わく

ミノル

夢の中息子迎える初日かな

シズ

聖夜にて降る雪思ふ哀しけり

あお

皆で見る鹿島の初日眩しいな

ミッチャン

大灘に凜々しく昇る初日かな

レイコ

初日の出いま見る物は美しき

イルカ

詣でたる鹿嶋帰りの初日かな

オノ

酒なしの初日に祝ふバースデー

すみれ

佳き年や朝日浴びたる福寿草

カート

わが子との暮らしを願ふ初日かな

たかこ

どっこい私も生きてます～我が回復記～

「マサヤの回復記」

第4回

自分がしてきた罪深い過去に打ちひしがれる

つくば市にあるカスミつくばセンターのイベント会場で、翌日に開催される「＜私の企画＞応援します!」で使うパソコンなどの設置を終えた後、私は仲間に無断で会場を去りました。でも、スリップして酒を飲もうという気はありませんでした。これといった当てもなく、行き場ありませんでしたが、とにかく会場からいきなり姿を消したのです。そうしてアディクトなら躓いた時に共通してやる、現実逃避の行動に出たのです。

半ば無意識のまま、自分はまずつくば市内にある先祖のお墓に行きました。墓碑の前で亡くなった祖母にこれからの事を祈っていると、不思議な事に「マサヤ、自分の状況を冷静に把握しろ!」という声が聞こえたのです。それが、最初に脳裏をよぎった「黙っていなくなったんだから、もう潮騒にはもう帰れないな…」という考えを変えさせてくれました。混乱した自分の思考回路は「帰れないのなら、もう一度居場所を一から創り出せばいいじゃないか!」という、いい意味での開き直りを起こさせました。でも、潮騒に戻ってのやり直しには抵抗感があり、踏み切れませんでした。

その後の私は、自分が否定されたはずの故郷に淡い幻想を抱きながら、過去に接点のあった友人や先輩、昔の恋人の家を回りました。もう自分は1人では社会生活が出来ないことは十分に分かっていましたから、「故郷なら自分を受け入れ、もう一度バックアップをしてくれる人が必ずいるはずだ」と信じ込みたかったのです。でも現実己の空想とはまるで違うものでした。

結果、私が訪ねた人たちからは誰一人としてろくに話を聞いてもらえず、まともに顔も合わせてもらえませんでした。私は、改めて自分がしてきた罪深い過去に打ちひしがれました。つくば市に向かっている車内で、頭に浮かんだ幼い日の記憶や楽しかった日々の出来事は、自分の中で勝手に理想化した思い出にすぎなかったのです。私が過去に迷惑を掛け続け、そして振り回した故郷の人たちにとって、私には依然として「アル中のどうしようもないダメ人間」のレッテル張りが消える事なく根強く残っていたのです。目の前の厳しい現実、そのことをリアルに教えてくれました。(次号に続く)

2月のバースデイ

ワカ



お世話になっています

エゾ



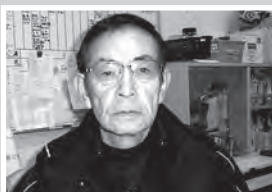
今日は頑張るぞ!

ノブ



認め・信じ・お任せ

コバ



平穏

INFORMATION

今年の潮騒 11 周年フォーラムは 11 月 27 日(日曜日)に前年と同じ鹿嶋勤労文化会館で開くことが決まりました。読者の皆様、先の事ながら今から潮騒フォーラム参加のために、どうか日程を開けておいてください。潮騒フォーラムは本来、秋季イベントが一段落する 12 月第 1 週の日曜日に固定したいのですが、会場確保に左右されるためにその前後になることもあります。鹿嶋市中心部には潮騒フォーラムの会場に適した公共施設が、鹿嶋勤文しかないのです。ご了承ください。今年もじっくりと時間を掛けて、昨年の 10 周年を上回る内容のパフォーマンスを実現したいと考えています。(潮)

1月の行事予定

- 1日(元旦) 息栖神社で太鼓初打ち
 2日 新年入寮者初顔合わせ・雑煮会
 4日 鹿島神宮初詣
 10・16日 秋元病院メッセージ
 14日 潮騒俳句会
 15日 太鼓
 24日 潮騒家族会
 28日 千葉刑務所職員来所
 31日 潮騒アディクションセミナー

2月の行事予定

- 3日 護国院節分祭(豆まき)
 14・20日 秋元病院メッセージ
 28日 潮騒家族会

編集後記

「この世に生まれながらのヤク中などいなよ。人によってはクスリへの親和性の強い体質はあるとしても、人生のちょっとした躓きやボタンの掛け違いによって依存症者に仕立てられてしまう。あえて言うなら本人がクスリと出合ったことが間違いであり、不幸の始まりなんだ」― 栗原センター長は自らの体験に基づき、そう主張する。だからこそ潮騒JTCでは当事者の失敗(＝治療的なスリップ)を認め、何度でも本人に立ち直りのチャンスを与える立場を取っている。もしかしたら宗教を超える寛容な人間観かもしれないが、「こうした前提に立たないと依存症の回復なんてあり得ない」とする栗原センター長の信念は揺るぎない。目先の成果や実績に囚われた目からは、“お人好しにもほどがある”と思われるかもしれない。実際、他施設よりも恵まれたはずのこうした入寮環境にもかかわらず施設への定着率は決して高いとは言えず、期待を裏切られる場面の連続だが、「まあ死ぬまでに回復のルールに乗ればいいんじゃないか」(栗原センター長)と意に介さない。「だって他ならない私自身が刑務所7回目でやっと回復のルールに乗れたんだ。それも60歳でね。人間なんて分からないもんだよ。死ぬまでね、いや死んでも分からないだろうな…」。本号6ページの仲間(サカ)についての感想を聞いたところ、栗原センター長からそんな意見を頂いた。とても深い人間理解に思えた。この息の長い構えが、みんなに信頼されるゆえんなのだろう。そう、人間なんて不可解極まりない存在なんだ。我が意を得たり、と思った瞬間でした。(市)

献金・献品を頂いた方(1月15日現在)

- | | | | |
|-----------|----------|----------|----------------|
| ・小田倉 祐一 様 | ・高橋 永子 様 | ・横田 博子 様 | ・宮部 美代子 様 |
| ・土屋 幸江 様 | ・横山 三次 様 | ・内堀 高良 様 | ・鹿島灘太鼓 島田 正之 様 |

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

潮騒通信 どっこい生きてます! 2015年1号

Contents

- P② 「刑の一部執行猶予制度」施行への対応について
 P③ 潮騒餅つき
 P④ ユタカ VS トム 対談
 第1回「苦しみの中で留置場に届いた希望の手紙」
 P⑥ 入寮者ケーススタディー その1 81歳のヤク中、サカの場合
 P⑦ どっこい私も生きてます 第六回チハル回復記
 P⑧ 今月のイベント参加報告
 ギャンブル講座やJA感謝祭に参加
 仲間が一堂に会したクリスマス会
 元旦から和太鼓初打ち、4日には鹿島神宮に初詣
 P⑨ 女性メンバー 正月風景と新年の抱負
 P⑩ 受刑者からの手紙
 P⑫ しおさい俳壇「初日」
 P⑭ どっこい私も生きてます「マサヤの回復記」第4回

■ 編集・発行:

特定非営利活動法人
 潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
 TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091
 潮騒リカバリーホーム(中施設)
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号
 〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
 TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098
 潮騒スリークオーターハウス銚田
 〒311-2113 茨城県銚田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>



